

テーマ4. 地域のリカレント教育

県立大学工学系第2学部の設置を機に、交流の深まりが期待される知的人材を活用して、**県内の若者、女性、中高年齢層、外国人などを対象**としたリカレント教育を実践する

1 県立大学を中心としたリカレント教育の実践

- **県立大学において**、時代や企業のニーズに合った実践的なリカレント教育プログラムを開発・実施
 - ▶ 地元企業等の社会人や若者・女性、社会に貢献したいシニア層のキャリアアップ・キャリアチェンジ等のために、**社会人入学枠、科目等履修生、出前講座等**のリカレント教育を実施
 - ▶ 地元企業や産業界のニーズに応じた**オーダーメイド型のPBL（課題解決型学習）リカレントプログラム**を共同開発
 - ▶ **社会人向けのカリキュラムを備えた大学院**の設置も視野に検討
- **高等技術専門校**において、若者、女性、外国人、再就職希望者等を対象としたスキルアップ訓練を実施
- **知的交流拠点**において、起業家をはじめとするスタートアップ関係者を活用した起業セミナー、インターンシップ等の実践的なリカレント教育を実施



テーマ4. 地域のリカレント教育

2 リカレント教育参加者と3町における交流の推進

- 知的交流拠点において、リカレント教育参加者と大学・スタートアップ関係者等との相互交流を促進
 - ・ 起業セミナーや交流イベントの開催
 - ・ スタートアップ起業等におけるインターンシップの推進
 - ・ 大学、高等技術専門学校におけるリカレント教育プログラム等の紹介 など

3 3町と県の合同の「就学前のはぐくみ」と「リカレント教育」に関する教育振興大綱の策定

- 3町の地域性・独自性を生かした就学前教育とリカレント教育のあり方について、県と3町で検討
- 取り組みの成果を県と3町で検証し、県内の他の自治体への周知・展開や県政への活用を図る

テーマ5. 新しいスポーツ施設の整備とウェルネスタウンの建設

- 新しいスポーツ施設の整備をきっかけに、子どもから高齢者まで、障害のある人もない人も、**すべての人びとが健康に暮らせる**まちづくりを目指す。
- 誰もが、いつでも、安心して、**楽しく歩ける**環境があるまち、まちの中心に住民が集い、**憩いの空間がある**まち、**賑わいがあり**、健康で気持ちよく暮らせるまちを設計する。

ウェルネスタウンのイメージ

<まちの構成要素>

屋根や照明、防犯カメラなども設置し、バリアフリーで整備されたウォーキング&ジョギングロード

緑が豊かで、明るく、イベントも開催できるような憩いの広場

運動・スポーツに親しみ、健康増進や子どものはぐくみを支える施設

など



つつい歩いてしまう、
楽しく歩き続ける仕掛けづくり

〈例〉スマホアプリを使って健康状態をチェックし、運動やウォーキングの前後に健康サポートセンターとデータ連携し、健康サポートを受ける。

Ⅲ 大和平野中央スーパーシティ構想のテーマごとの検討課題

テーマ5. 新しいスポーツ施設の整備とウエルネスタウンの建設

1 川西町下永地区のスポーツ施設の整備とウエルネスタウン建設の方向性

- 誰もがいつでも思いおもいに集まり、くつろぎ、気持ち良く過ごせるような、健康増進と憩いの空間づくり。
- いつでも、誰でも、安心して楽しく歩ける環境づくり。
- 食事・運動・リラクゼーションのほか健康サポートと子育てサポートの機能も備えた多機能で複合型のクラブハウスをスポーツ施設に併設。
- 新たに整備するスポーツ施設は、「子どもが遊びや運動を通して成長する公園」を目指して拡張整備するまほろば健康パークと連携し、子どもの健やかな成長と家族の健康に寄り添うウエルネス拠点を構築。

■ 構成施設等の考え方（案）

・スポーツ施設は、年齢や性別を問わず、平日・休日ともに賑わい、多様な人がいつでも気軽に利用できるテニスコートなど。ICT技術を導入することで、映像やリアルタイムレポートによる効果的な指導も可能となる。

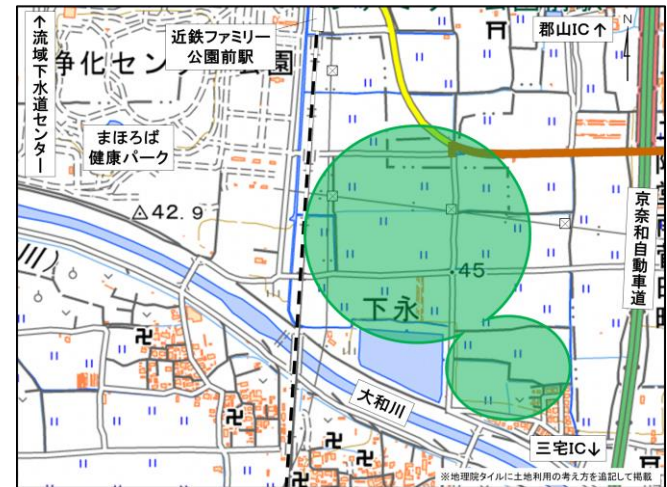
・ウエルネス施設は、ウォーキング&ジョギングロードや多様なウエルネス機能を兼ね備えたクラブハウスなど。

周辺施設とも連携

- ・ まほろば健康パーク
- ・ 奈良県中央卸売市場
- ・ なら歴史芸術文化村
- ・ 天理大学

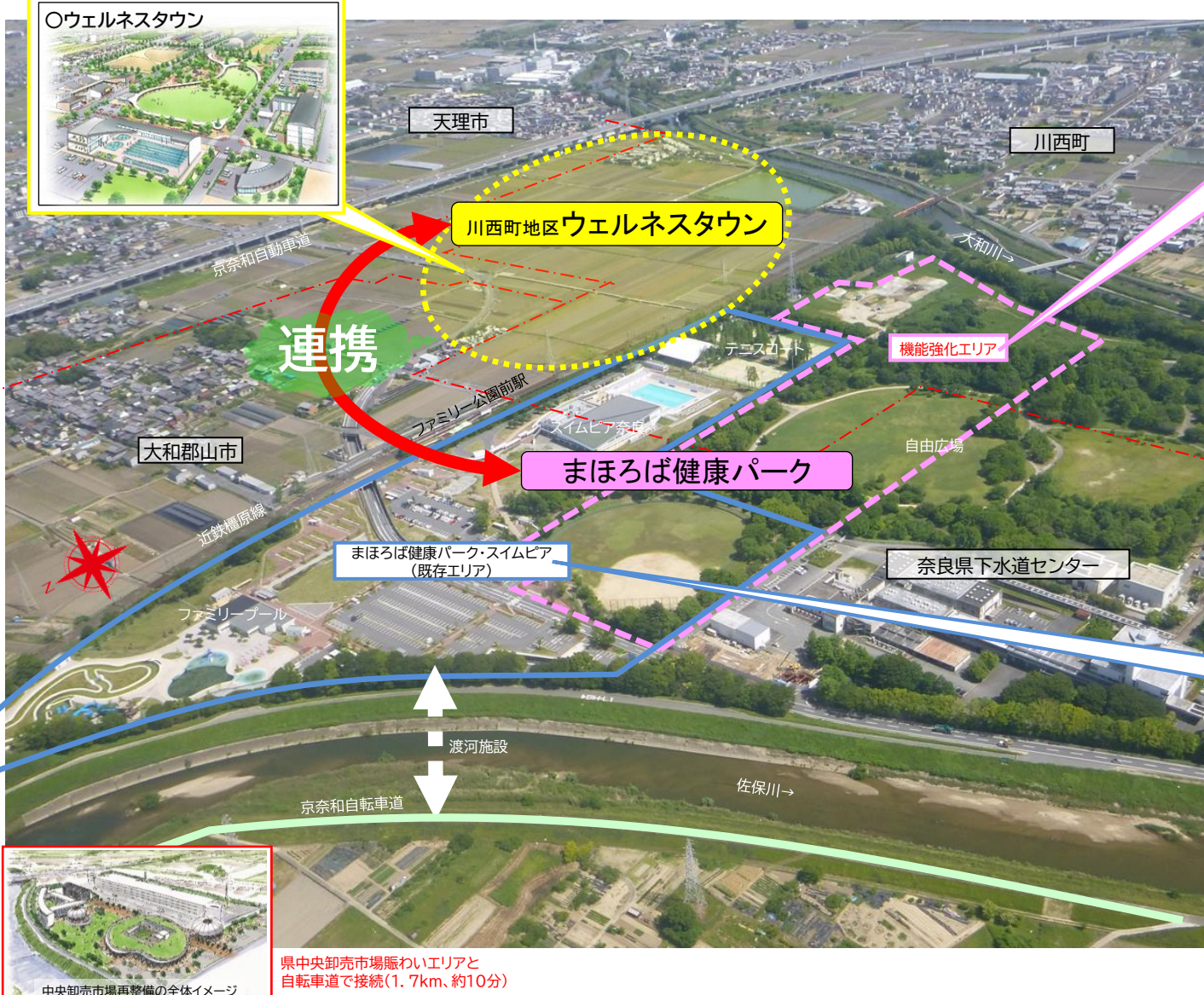
など

■ 川西町下永地区



テーマ5. 新しいスポーツ施設の整備とウェルネスタウンの建設

「川西町地区ウェルネスタウン **新たに整備**」と「まほろば健康パーク **子どもの公園機能を強化**」
 により、**誰もが利用できる総合ウェルネスゾーンを創出**



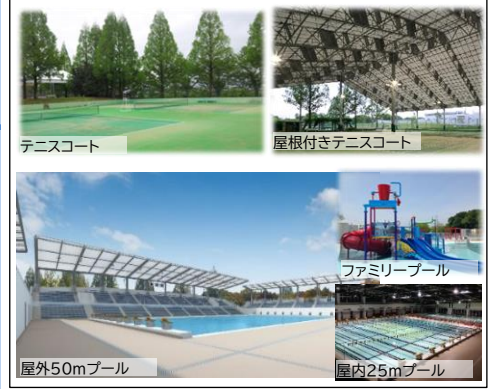
○機能強化エリア
 子どもが遊びや運動を通して成長する公園として機能強化

導入を検討している施設例

- ①乳児・幼児が遊びを通して成長できる施設
対象年齢: 6ヶ月~5歳
- ②子どもが遊びや運動を楽しみ上達する施設
対象年齢: 3歳~10歳
- ③子どもが目標に向かって取り組むスポーツ施設
対象年齢: 8歳~15歳
- ④アメニティー施設
メイン大通り、青空広場、カフェ・レストラン、総合案内所等



○まほろば健康パーク・スイムピア(既存エリア)
 主な施設: スイムピア奈良、テニスコート、ファミリープール等



県中央卸売市場賑わいエリアと
 自転車で接続(1.7km、約10分)

Ⅲ 大和平野中央スーパーシティ構想のテーマごとの検討課題

テーマ5. 新しいスポーツ施設の整備とウェルネスタウンの建設

2 田原本町阪手北・西井上地区のスポーツ施設の整備とウェルネスタウン建設の方向性

- 誰もがいつでも思いおもいに集まり、くつろぎ、気持ち良く過ごせるような、健康増進と憩いの空間づくり。
- いつでも、誰でも、安心して楽しく歩ける環境づくり。
- 食事・運動・リラクゼーションのほか健康サポートと子育てサポートの機能も備えた多機能で複合型のクラブハウスをスポーツ施設に併設。
- 新たに整備するスポーツ施設を中心に、年齢や障がいの有無に拘らず多様な人々が集まり、いつでも賑わいが溢れるウェルネス拠点を構築。

■ 構成施設等の考え方（案）

・スポーツ施設は、IoTを活用することで、付加価値の高い観戦環境の提供、AIカメラやキャッシュレスによる場内混雑の緩和、観客・選手のデータ収集・活用等が可能となるような新しいサッカースタジアムなど。

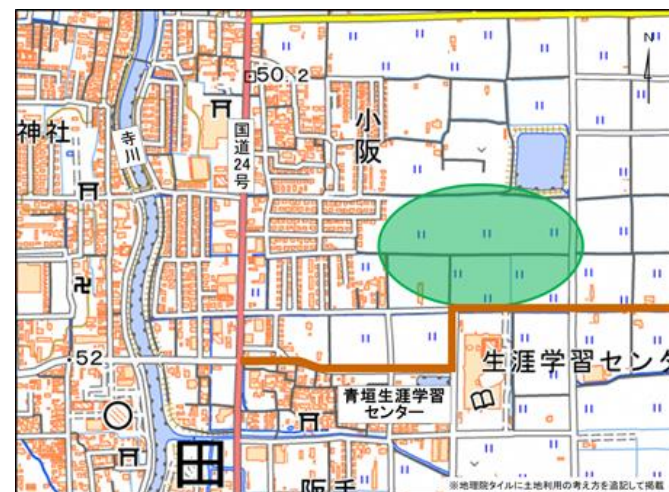
・ウェルネス施設は、ウォーキング&ジョギングロードのほか、多様なウェルネス機能を兼ね備えたクラブハウスなど。

周辺施設と連携

- ・ 奈良県健康づくりセンター
- ・ 障害者総合支援センター
- ・ 奈良県総合リハビリテーションセンター
- ・ 県営福祉パーク
- ・ 心身障害者福祉センター
- ・ 奈良県フットボールセンター
- ・ 田原本町生涯学習センター

など

■ 田原本町阪手北・西井上地区



Ⅲ 大和平野中央スーパーシティ構想のテーマごとの検討課題

テーマ5. 新しいスポーツ施設の整備とウェルネスタウンの建設

3 健康サポートセンターを併設した多機能複合型クラブハウスの設置

多機能複合型クラブハウスは、健康サポートセンターを中心に「ウェルネス」を向上させる多様な機能があり、子どもから高齢者まで、障がいのある人もない人も、スポーツをする人もしない人も、様々な方が集まり、交流し、活動する「毎日行きたくなる場所」としてスポーツ施設に併設。

■ 多機能複合型クラブハウスイメージ

カフェ・サロン
(スポーツ施設が眺められる)

健康食堂
(子ども、高齢者、女性、ビジネスパーソン、アスリート)

健康サポートセンター

スタジオ、ジム、マッサージ、クアハウス、
カラオケ、子どもの遊び場、ライブラリー等

温水プール



健康食堂



健康サポート



スタジオ



子どもの遊び場

テーマ5. 新しいスポーツ施設の整備とウエルネスタウンの建設

4 先進的ウエルネスタウン建設の取組

a. 全生涯、全世代のウェルネス向上の仕組（理論と環境整備）

- ・乳幼児期（0～5歳 ※就学前）・児童期（6～17歳）・青年期（18～44歳）・壮年期（44～64歳）・高齢期（65歳以上）などのライフステージとともに、就学前、子育て、ビジネスパーソンなどのライフスタイルにも応じた運動・スポーツのあり方を検討し、その推進に取り組む。
- ・特に子どものウェルネスは、子どもが遊びを通して成長や発達の段階に応じた身体を動かす楽しさを得るような環境づくりに取り組む。
- ・学校部活動は、国体開催を契機とするスポーツ・運動施策の活用や総合型地域スポーツクラブとの連携等による地域移行、そのほか効率的な部活動の推進など、地域運動部活動推進に取り組む。

b. 障害児のウェルネス

- ・障害の種別や程度、発達段階、体力レベルに応じ、医学的管理に基づいて、運動・スポーツを楽しむ機会の充実、環境づくりに取り組む。
- ・障害の有無にかかわらず、ともに参加してスポーツを楽しみ、相互の交流を深めることが出来るよう、誰もが参加できる内容のスポーツイベントを開催するなど、交流を促進する取り組みを進める。
- ・障害児の運動・スポーツへの参加を指導・支援するスポーツ指導者やボランティアの育成・資質向上に取り組む。

c. 病後のウェルネス

- ・ **県リハビリテーションセンター**における地域の健康増進の実行
 - ① 「健康意識の醸成」につながる講座の開催
セラピスト等による住民の健康意識醸成のための各種講座開催
 - ② 生活習慣病の発症予防と重症化予防の取組
骨塩定量検査と骨粗鬆症マネージャーによる予防指導等
サルコペニア診断と理学療法士によるリハビリ
 - ③ 社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上
県営福祉パーク歩行路の活用



3世代が元気に運動

Ⅲ 大和平野中央スーパーシティ構想のテーマごとの検討課題

テーマ6. 医療、地域包括ケア、健康推進、社会福祉の一体的推進

地域住民の健康を維持し、健康寿命を延ばすため、地域包括ケアを充実させ医療提供体制のパフォーマンスを向上させる。地域住民に、社会福祉サービスが、滞りなく行き渡るための仕組みをつくる。

これらを地域で一体的に推進できる体制を整える。

1 地域の医療、地域包括ケア、地域の健康の状況の全体像を把握し、「見える化」を図る

(1) 地域の健康寿命

磯城郡3町の健康寿命の現状

健康寿命

=

平均余命

−

平均要介護期間

健康寿命 (年)	川西町 (H30(H29-R1))	三宅町 (H30(H29-R1))	田原本町 (H30(H29-R1))
男性 (市町村順位)	19.43 (1位)	19.40 (2位)	18.26 (20位)
女性 (市町村順位)	19.96 (32位)	20.19 (29位)	21.24 (12位)
平均余命 (年)	川西町 (H30(H29-R1))	三宅町 (H30(H29-R1))	田原本町 (H30(H29-R1))
男性 (市町村順位)	21.18 (4位)	21.61 (1位)	19.83 (23位)
女性 (市町村順位)	23.56 (32位)	24.52 (18位)	24.44 (25位)
平均要介護期間 (年)	川西町 (H30(H29-R1))	三宅町 (H30(H29-R1))	田原本町 (H30(H29-R1))
男性 (市町村順位)	1.75 (23位)	2.21 (37位)	1.56 (12位)
女性 (市町村順位)	3.60 (17位)	4.33 (33位)	3.20 (8位)

Ⅲ 大和平野中央スーパーシティ構想のテーマごとの検討課題

テーマ6. 医療、地域包括ケア、健康推進、社会福祉の一体的推進

(2) 地域の悪性新生物、急性心筋梗塞、脳血管疾患

3町は人口規模が小さいため、死亡者1人が市町村順位等に大きな影響を与えることに配慮が必要です。

磯城郡3町の死因別死亡者数（人口10万人あたり）※年齢調整後

疾患	性別	(参考)	(参考)	奈良県 (R1) ※2	磯城郡 3町 (R1) ※2	川西町 (R1) ※2	三宅町 (R1) ※2	田原本町 (R1) ※2
		全国 (H27) ※1	奈良県 (H27) ※1					
がん ※3	男性	165.3	160.0 (16位)	80.3	77.4	97.1 (32位)	119.2 (35位)	63.8 (16位)
	女性	87.7	82.3 (13位)	50.7	65.4	105.3 (37位)	34.0 (11位)	61.3 (29位)
急性心筋梗塞	男性	16.2	10.5 (4位)	8.0	5.5	0.0 (1位)	0.0 (1位)	8.2 (30位)
	女性	6.1	4.1 (4位)	2.4	0.9	5.6 (34位)	0.0 (1位)	0.0 (1位)
脳卒中	男性	37.8	29.0 (2位)	22.4	22.3	18.5 (14位)	52.0 (38位)	16.8 (13位)
	女性	21.0	17.8 (5位)	14.5	8.4	0.0 (1位)	5.2 (6位)	11.2 (15位)

令和元年
死亡者数
(実数)

川西町
男性6人
女性7人
三宅町
男性8人
女性2人
田原本町
男性20人
女性14人

川西町
男性0人
女性2人
三宅町
男性0人
女性0人
田原本町
男性2人
女性0人

川西町
男性3人
女性0人
三宅町
男性4人
女性1人
田原本町
男性9人
女性11人

※1 全国(H27)及び奈良県(H27)の出典は人口動態統計特殊報告(厚生労働省)、奈良県の順位は都道府県順位で少ない順

※2 R1のデータは奈良県で独自に算出、磯城郡3町の順位は県内市町村順位で少ない順

※3 がんのR1のデータは75歳未満年齢調整死亡率

Ⅲ 大和平野中央スーパーシティ構想のテーマごとの検討課題

テーマ6. 医療、地域包括ケア、健康増進、社会福祉の一体的推進

(3) 地域の医療・包括ケアのパフォーマンスを向上させる

① 医療パフォーマンスの全体像の把握

・医療提供体制の現状

磯城郡3町に所在する医療機関や病床数、薬局の人口10万人あたりの数は、県全体・全国を下回っている。

		病院数	診療所数		病床数	訪問看護ステーション数	薬局数
			内科	歯科			
磯城郡3町	実数	2	35	18	344	6	13
	人口10万人あたり	4.3	76.0	39.1	746.6	13.0	28.2
奈良県	人口10万人あたり	5.9	91.4	51.2	1,275.8	12.0	42.6
全国	人口10万人あたり	6.6	81.3	54.3	1,284.0	10.3	47.7

※病院数・診療所数・病床数は医療施設調査(令和元年10月1日時点)
 訪問看護ステーションは令和3年4月1日時点、薬局は令和2年3月31日時点
 ※県人口及び全国人口は、人口推計(令和元年10月1日)
 磯城郡3町の人口は、県統計分析課資料(令和元年10月1日)

・医療費適正化の現状

磯城郡3町の1人当たり医療費は県平均、全国平均より下回っている。
 特定健診受診率、後発医薬品使用割合は、県平均、全国平均を下回っている。

	R元年度1人当たり医療費(円)	R2年度特定健診受診率(%)	後発医薬品使用割合(%) <R3.3月診療分>
磯城郡3町	360,490	28.3	70.6
県平均	379,315	30.9	74.0
全国平均	378,939	38.0	79.4

(令和元年度国民健康保険事業年報(厚生労働省)、奈良県国民健康保険団体連合会報告値、厚生労働省公表資料)

・国民健康保険の現状

磯城郡3町の保険料収納率は県平均を上回っており、国保特会の剰余金は県平均に比べ多額となっている。

	保険料収納率(%)	1人当たり剰余金(円)
川西町	99.6	42,136
三宅町	98.9	63,415
田原本町	96.7	91,129
県平均	94.8	41,947

(令和2年度国民健康保険事業年報(厚生労働省))

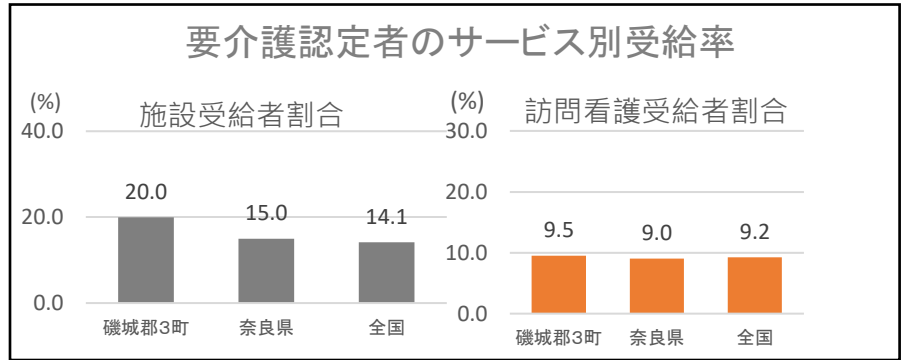
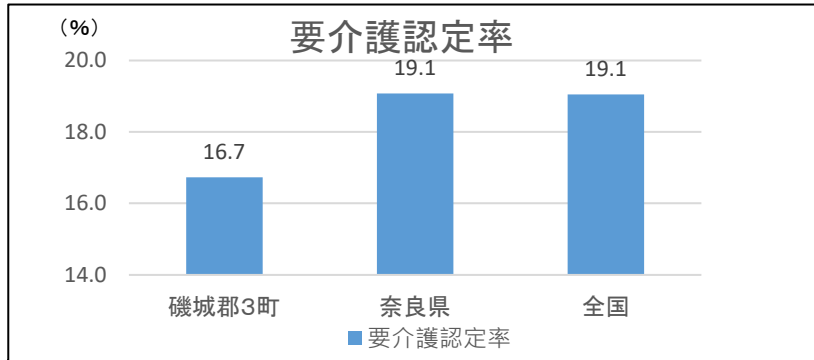
Ⅲ 大和平野中央スーパーシティ構想のテーマごとの検討課題

テーマ6. 医療、地域包括ケア、健康増進、社会福祉の一体的推進

(3) 地域の医療・包括ケアのパフォーマンスを向上させる

②地域包括ケアシステムの現状把握

■要介護者の現状、施設介護と在宅介護(訪問看護含む)の実情

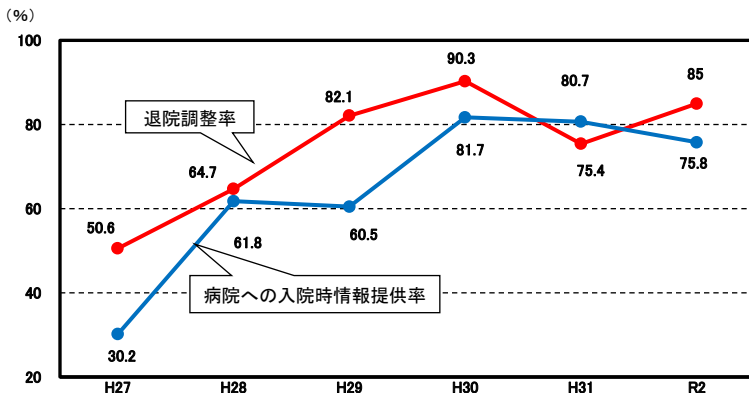


磯城郡3町では県平均・全国平均と比較して、要介護認定率は低い。

磯城郡3町では、県平均・全国平均と比較して、施設利用率は高く、訪問看護利用率はやや高い。

出典:厚生労働省介護事業状況報告 令和3年3月時点

■東和圏域(※)における入退院調整ルールの実用率の推移



(※)東和圏域:桜井市、宇陀市、川西町、三宅町、田原本町、曾爾村、御杖村

病院への入退院と在宅療養・介護の連携をスムーズに行う「入退院調整ルール」については、東和圏域で平成27年度に策定された。入退院調整ルール策定後、次第に地域に浸透し、平成30年度以降は高い水準で推移している。

出典:県地域包括ケア推進室調べ

テーマ6. 医療、地域包括ケア、健康推進、社会福祉の一体的推進

2 地域の健康成果の目標を設定する

- 例) ・健康寿命 県内一長くする
・がん死亡率 県内一低くする
・平均要介護期間 県内一短くする
・一人当たり医療費水準 県内一低くする

3 健康成果目標を達成するため健康行動目標を設定する

- 例) ・1日30分以上の運動を週2日以上している人の割合 県内一高くする
・主食、主菜、副菜を3つ揃えて1日に2回以上食べる
頻度が「ほぼ毎日」の人の割合 県内一高くする
・1年に1回以上、歯科検診を受診している人の割合 県内一高くする

4 健康成果目標、健康行動目標達成のための環境を整備する

- 例) ・スポーツ運動施設の整備
・良い食習慣の定着
・健康データの指標管理

5 社会福祉の一体的推進のための仕組みづくり

- 例) ・町役場の福祉の窓口一本化
・福祉サービスの積極的活用のための「ラヒホイタヤ」の設置

Ⅲ 大和平野中央スーパーシティ構想のテーマごとの検討課題

テーマ6. 医療、地域包括ケア、健康推進、社会福祉の一体的推進

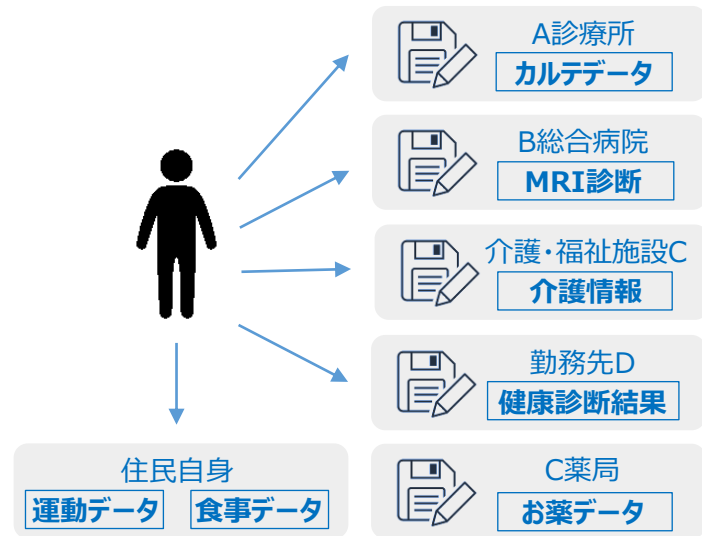
健康目標達成のための取組

○ 健康データの包括管理

医療・福祉・健康サービスの一体化・複合化 + 新しい医療・健康サービスの提供

現状・これまで

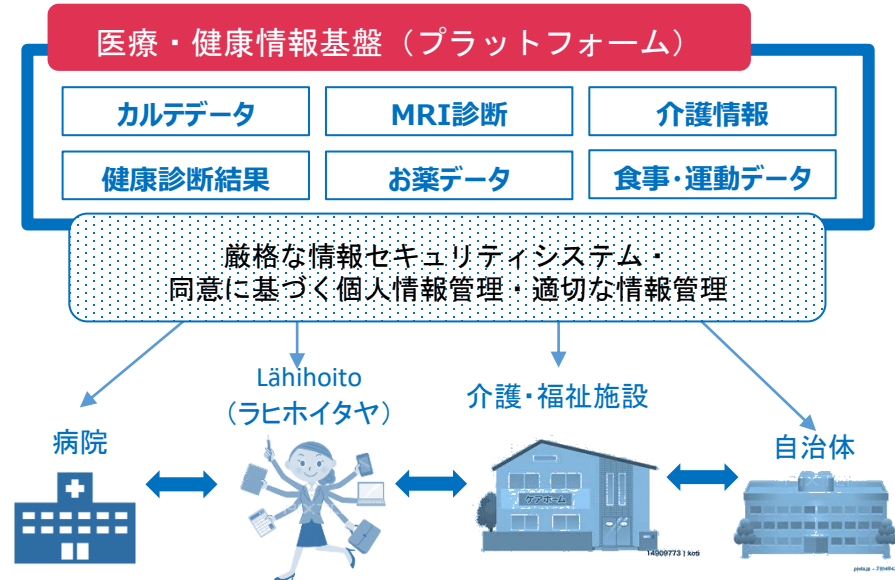
住民の医療・健康情報は**分断**され、
局所的・縦割りで取得・利用



情報セキュリティの基準や情報管理のルールは必ずしも
明確化・共通化されていない

医療・健康情報基盤の
構築・活用

**医療・健康情報の基盤を整備し、個々人に
最適化された、一体的・複合的サービスの提供**



個々人に最適化された、一体的・複合的サービス
+

医療系IT企業



最新のIT医療・福祉サービスの展開

Ⅲ 大和平野中央スーパーシティ構想のテーマごとの検討課題

テーマ6. 医療、地域包括ケア、健康推進、社会福祉の一体的推進

医療・健康情報基盤（プラットフォーム）を活用して、医療系IT企業と連携し、
大和平野中央を起点に、新しい医療・健康サービスを順次展開

現在、検討中のサービスの例

食事・運動データを活用した 先進の健康増進サービス

- スマホで、睡眠時間や歩数・脈拍・運動・食事データを集約
⇒ 専門家がオンラインで、食生活の改善メニューや運動を提案

データ・情報連携による 医療・介護・福祉の連携

- 施設間での患者情報の連携ツールやデータ分析を提供
⇒ 医療・介護・福祉をまたがる横断的なサービスを提供可能に

デイサービス施設の支援

- 高齢者の生活課題や希望を基に、運動プログラムを自動で作成
⇒ リハビリ専門家がないデイ施設でも的確な機能訓練を提供

オンラインかかりつけ医制度

- 日本最大規模の医師ネットワークを活用し、24時間365日いつでもオンライン相談が可能
⇒ 南部東部の医療充実など、県民向けの医療提供体制を強化

医療機関の業務支援

- 電子カルテや決裁、処方箋の送付などをワンストップでできるサービスを病院・医師に提供
⇒ 県内病院・医師の事務を支援

医療の研究開発の支援

- 県立大学や研究機関、スタートアップ等向けに、匿名化された医療健康情報を活用
⇒ 研究機関等における創薬開発等のイノベーションを加速

→ 今後も、プラットフォームを活用して様々なサービス導入が可能

テーマ7. 田園都市建設構想の実現

磯城郡3町においては、

- 鉄道駅を中心に既成市街地が形成
 - 近年整備された高規格自動車道路「京奈和自動車道」周辺において工場立地が拡大
 - 既成市街地の外郭に広大な農地が広がっている。
- この地域において都市と農地の共生する田園都市建設を計画的に進める。

1. マスタープラン型ではない地域発想型土地利用プランの策定

- ボトムアップ型で土地利用プラン策定

ビジョンを地元の発想でつくる

ビジョンを自治会、土地所有者と共有する

地域住民と土地所有者の賛同が得られたら、
具体的な計画をつくる

具体的な計画とインフラ（道路等）計画と
の整合性を図る

プロジェクトの実施

- ・県立大学キャンパス・スタートアップ
ヴィレッジ（三宅町）
- ・ウェルネスタウン（田原本町）
- ・ウェルネスタウン（川西町）

Ⅲ 大和平野中央スーパーシティ構想のテーマごとの検討課題

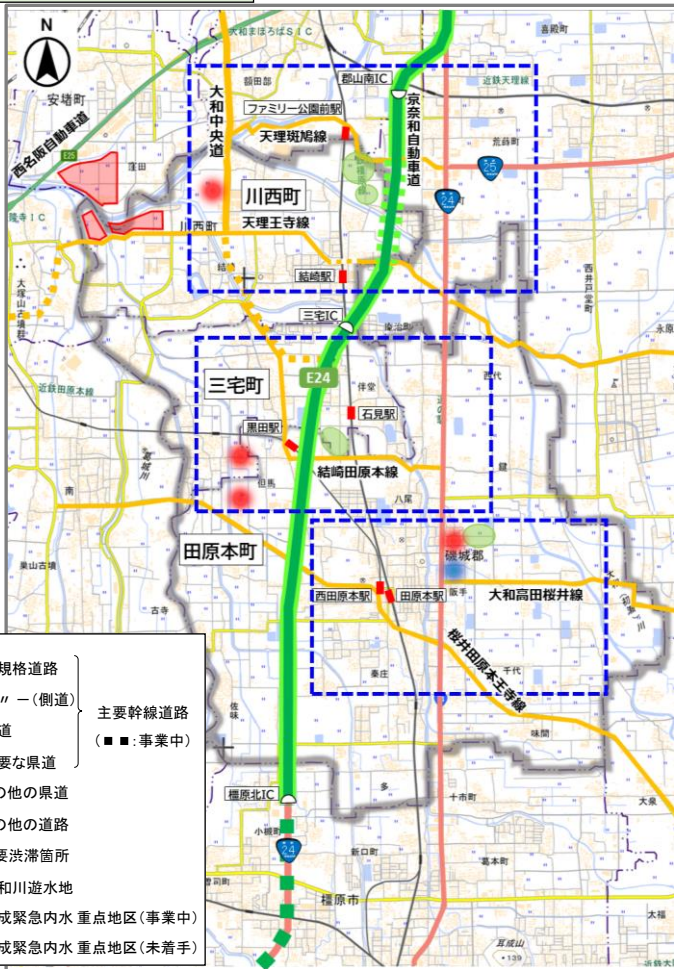
地域発想型土地利用プラン

- ・ 「まち」に集う人々の活動や移動を円滑かつ安全に支える
- ・ 周辺エリアに渋滞悪化や交通事故増加など負の影響を及ぼすことがないように周辺整備エリアと調和のとれた都市環境を実現
- ・ インフラ整備プランを策定し、県・3町が役割分担して、集中的にインフラ投資を実施

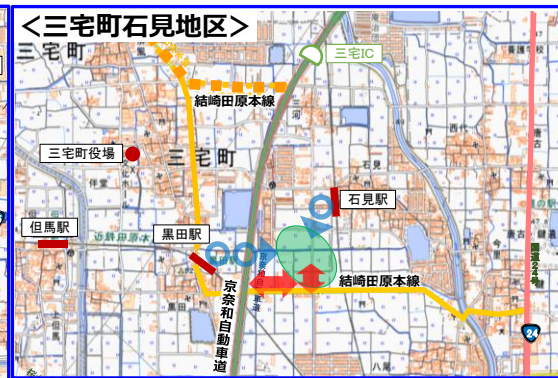
取り組み(案)：3つの階層に分け、エリアを特定

- | | | | |
|-------------|--------------------|---|---------------------------|
| ① 開発エリア | (用地買収して開発するエリア) | ⇒ | 県で実施 |
| ② 周辺整備エリア | (駅や主要幹線道路を含む周辺エリア) | ⇒ | 町で実施 |
| ③ 3町広域整備エリア | (3町の全域を含む広域エリア) | ⇒ | 国・県で実施 (平成緊急内水対策事業は県・町連携) |

③ 3町広域整備エリア



② 周辺整備エリア



① 開発エリア (Green circle icon)

想定するルート(今後精査が必要)

- Red double-headed arrow: 県土の軸となる主要幹線道路から開発エリアまでのアクセスルート
- Blue arrow with circles: 鉄道駅から開発エリアまでのアクセスルート

Ⅲ 大和平野中央スーパーシティ構想のテーマごとの検討課題

大和平野中央プロジェクト周辺エリア・田園都市建設構想

ポイント②

○「都市」と「農地」が共生するしくみの構築

農地をプロジェクト用地として活用するとともに、特定農業振興ゾーンを核として農業を振興（農業生産額を維持・向上）



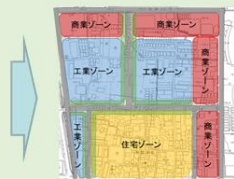
農地法等の規制改革を提案

ポイント②

○既成市街地の住・商・工・農の混在化を解消
地区協議会を設置し「地区計画」の検討・策定・実行により、住みやすく働きやすい土地利用へ転換



▲ 用途混在の実例



▲ 地区計画による混在整序のイメージ



ポイント③

【ハウードの田園都市構想】

自然と共生し、自立した職住近接型の緑豊かな都市を建設しようとする構想
(1902年 エベネザー・ハウードが提唱)



テーマ7. 田園都市建設構想の実現

2. 自然環境整備と地域の誇りづくり

①平地の森づくり

- ・速成バイオマスの森
- ・憩の森

②親水空間づくりと知的交流空間設置

③無電柱化



④川辺散歩道、自転車道

⑤地域の誇りを観光に結びつける

- ・ **地域DMO設立、観光拠点づくりの促進**
- ・ **周遊観光の推進**
地域に点在する観光資源を結びつけ、徒歩や自転車など多様な方法で周遊できる定番ルートを造成するなど周遊観光の推進を図る。
- ・ **地域観光コンシェルジュ育成**
地域に根付く伝統や歴史文化などを魅力的に伝えられる観光コンシェルジュを育成し、地域住民や関係者の誇りの醸成を図るとともに、観光客の満足度の向上とリピーターの確保に繋げる。

⑥まち中芸術文化スポットづくり

- ・ **デジタルアート館**（空き家、店舗等の有効活用）
動画制作・配信スタジオを併設
→障害の有無にかかわらず、人の表現行為に付加価値を生む環境を作り、イノベーションを促進
 - ・ **まちかど文化活動発表ステージ**
文化活動の発表の場と生きがい創出
→モーションキャプチャなどを用いて、人体の動きを解析、四肢の動きを補助する、介護、医療技術の革新につながるロボットの開発や、言語によらない感情表現の研究にも使用
- ※モーションキャプチャ
現実の人物や物体の動きをデジタル的に記録する技術。

Ⅲ 大和平野中央スーパーシティ構想のテーマごとの検討課題

テーマ8. 地域内移動の円滑化

1 共同コミバス、共同タクシーの運行

①最先端技術を活用したコミバス・オンデマンドタクシーの運行

- ・3町の鉄道駅～県立大学工学系第2学部など主要施設間を結ぶコミュニティバスの運行(自動運転技術も活用)
- ・AIによる最適な配車・経路の提案を基に効率的に運行される、オンデマンドタクシーの運行
※整備される施設の規模・立地・利用者層、走行環境等を踏まえ、詳細を検討



名古屋市での自動運転バス実証実験
出典:愛知県HP

②シェアリングサービスやスローモビリティ等新たな交通モードの活用

- ・シェアリングアプリを活用したカーシェアリング・運送サービスの提供(利用データをビッグデータとして蓄積、小中学生の習い事・送迎への活用、土日祝日の公用車シェアリングについても検討)
- ・スローモビリティ(カート(手動・自動)など)やスモールモビリティ(シェアサイクル・電動キックボードなど)を活用した子どもの登下校支援、高齢者の買い物支援、ラストマイル移動円滑化 など
- ・病院・学校・企業等の施設送迎バス(自家用車)による施設利用者以外の有償運送を可能とし、地域公共交通に活用



熊本県芦北町での自動運転バス実証実験
出典:国交省HP

③域内の多様な交通モードをワンストップで利用可能な仕組みの構築(MaaS)・エリア内の総合サブスクリプション化

- ・スーパーシティのデータ連携基盤と一体的に運用されるMaaSの構築
(最適な移動経路の提示、予約・決済の一元化、キャッシュレス・非接触型技術の導入)
- ・多様なモードの総合サブスクリプション化についても検討
- ・運行・運賃などについては、地域が主体的に決定できる仕組みとする
(地域公共交通活性化再生法の協議会等の枠組みを活用)

